

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4270401187		
法人名	(有)ポラリス		
事業所名	グループホーム イーハートブ		
所在地	長崎県諫早市有喜町151-10		
自己評価作成日	平成22年 11月 5日	評価結果市町村受理日	平成22年 12月 28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成 22年 12月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H22年7月より、1F有料老人ホームも再開し以前に比べ、より賑やかになりました。季節の行事も合同で行っています。又、夏休みには学童があり、小学生との交流もおこなっています。天気の良い日は散歩に行き、近所の方から声をかけて頂いたり、季節の花を頂いたり、少しずつ地域の方とのふれあいもできてきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔からの情緒が漂う商店街の一角にある事業所は、今年度1階に有料老人ホームが再開し、職員の入れ替わりがあったが、利用者に動揺を与えることなく、ぬくもりのあるやさしい支援になるよう日々努めている。利用者に役割を持って頂く事で利用者の自信に繋がるように、できる事、できそうな事を見つけ、一緒に支援しながら喜ぶ事を大切にしている。朝がゆっくりな利用者には、朝食の時間を遅くして差し上げたり、一人ひとりのペースに合わせたゆったりとした時間を提供している。利用者一人ひとりのアルバムを用意し、その時々写真を利用者と一緒に会話を交えながら貼り、作成している。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目が届くように、皆さんが集まるリビングに大きく理念を掲げ、常に意識しながら業務に取り組んでいる。	利用者本意のサービスとなる様、一人ひとりのペースに合わせ、ゆっくりと時間をかけて、理念を大切にしながら支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの商店へ買い物に行ったり、散歩に出かけ地域の方々との交流を図っている。又、毎年行われている「のんのこ祭り」にも参加可能の方のみだが参加している。	日頃から散歩や買い物の際には、近隣の方と挨拶を交わしたり、近くの金物店に車椅子の修理をお願いしたり、地域の方からお花を頂く等、徐々に交流が広がっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いている自治会長さん、民生委員さんを通し地域の方々に理解を求めているが、事業所が直接活かしているとはいえない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回ホームで会議を開き、当ホームでの事例を基にしたテーマを設定し、意見を交換する事で、サービス向上に取り組んでいる。	会議では地域の情報を交えながら、和やかな雰囲気の中開催されている。避難訓練は地域の方の参加を募った方が良いとの意見を頂き、自治会の回覧板で知らせて頂いた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務上必要な事の連携程度ではあるが、運営推進会議の際、日頃疑問等聞いて頂き、助言を頂いている。	就職支援の研修生の受け入れを行い、介護技術の習得について協力している。疑問点があれば、積極的に質問をし、意見を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成しており、入口に身体拘束排除宣言を掲げ、拘束しないケアを目指している。	職員間で教えあったり、管理者が気軽に注意ができる環境の中で、外出傾向がある利用者には、さりげなく寄り添い同行する事もある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに参加する事で、虐待防止への意識を高め、利用者様の状態観察を行い、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会がある時は、参加するよう促しており、必要がある場合は関係機関へ相談し、活用できるよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際、利用者や家族に対して書類を提示しながら、分かりやすい言葉で説明している。不安や疑問点がある場合は、その都度補足説明をし、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見、要望ができるよう、アンケート作成、意見箱の設置を行っている。口頭で頂いた場合は、申し送りに記入し、全職員に伝わるようにしている。	法人で待遇委員を立ち上げ、利用者、家族の意見を反映するよう努めている。気軽に話して頂ける雰囲気となるように、ゆっくりと話を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員が参加する会議が月1回又、ホームにおいても週1回ミーティングを行う事で、利用者の変化等を含め、職員の意見を求め、業務内容に反映させている。	月1回の職員会議では、全職員が気づきや疑問に思う事等を含め、意見を言う機会を作っている。管理者は日頃から気軽に意見を言ってもらえるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がスキルアップを図れるように、移動の希望を受け付けたり、給与水準を引き上げる為、業務拡大する等、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修会へ積極的に参加を促し、参加後には研修報告を作成し、全職員に報告する事で、内容の理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われている、諫早市のグループ連絡協議会の研修会に参加し、情報交換等を行っている。又、毎年行われているボウリング大会にも参加し、スポーツでの交流も行われている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時から、介護支援専門員がアセスメント及び聞き取りを実施している。又、職員が得た情報を意見交換し、情報を共有する事で信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から、介護支援専門員や担当職員が十分な聞き取りを行い、家族とのコミュニケーションをとり、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで得た情報を基に、本人や家族の状態を考慮し、安心して生活して頂ける環境作りを行い、今後の可能性も予測しながら迅速な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす日常の中で、利用者様が素直に表情、喜怒哀楽に寄り添う事に努めているが、暮らしを共にするまでには達しておらず、介護主体の場面も見られるのが現状である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の情報を知って貰う為、ホーム便り、家族への手紙を毎月送っている。病院受診の際は電話連絡し、報告を行っている。またイベント等の参加の呼びかけも行い、繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間等は定めておらず、何時でも会いに来て頂ける雰囲気、環境作りに努めている。希望があれば自宅へ帰り、気分転換を図っている。	利用者のお好きな馴染みのある音楽や、映像を提供したり、昔から馴染みのある場所へ買い物にお連れする事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個人の生活スタイルを尊重しているが、場合によっては個人の性格や状態を考慮した上で職員が間に入り、利用者同士が交流できる雰囲気や場を作るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスや利用を終了された方や、ご家族の方へのフォローや相談支援の問い合わせがない為できていないが、今後相談等があれば支援していきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常会話の中で、希望や意向を聞いたり、申し送り等で職員全員が情報を努めているが、本人の為に迅速対応、検討できているとはいえない。	何気ない昔の会話から、利用者の思いを引き出すように努めている。利用者からホームに来て良かったと言って頂ける事もあり職員の励みとなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から聞き取ったり、以前サービスを利用されていた施設の関係者、家族から聞き取りを行い、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、入浴の際の身体チェックを行い、身体の可動域、力の強さ、記憶力等レクリエーションを通し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報収集を行い、必要な関係者の意見を参考にし、また、職員が新たに発見したアイデア等も組み込んで介護計画を作成している。	2名の職員に対し3名の利用者を担当して、利用者も一緒に加わり、計画を作成している。変化があれば、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録を書き、大切な情報は申し送りに書き、職員全員が情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の方が遠方の入居者様もおられるので、医療機関への入退院時の対応、その他にも必要に応じサービスを越えた支援を心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活保護制度の活用、その他の制度が必要な方もおられ、地域資源の活用に努めており、必要になれば申請等も行っている。また、家族の事情により通帳を預かっている方は、利用者様の為に使える金銭の確保も行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重しており、定期受診も行っている。常に受診は職員が同行しており、ホームで急変時は主治医へ連絡し指示を仰いでいる。	基本的には職員が受診支援を行っている。受診ノートを作成し、申し送り時に職員間で共有し、家族にも報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護職員は不在だが、常に利用者の健康状態には気を配り、変化あれば受診を急ぐように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くよう努めており、その際、担当の看護師さんや相談員の方と情報交換を行っている。また、必要に応じ、電話連絡も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何かあったら救急搬送する事を家族には説明しているが、地域の関係者とチーム支援には取り組んでいない。	利用者や家族の意向を踏まえ、事業所が対応できる最大のケアについての説明は行っているが、状況の変化に応じた、段階的な話し合いが行えるように検討している。	事業所が対応可能な支援を踏まえ、できるだけ早期から話し合いの機会を作り、文書化する事で、方針の統一を図る事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期マニュアル、応急手当マニュアルは、目につく所に掲げてあるが、訓練も年に1度行う程度で、実践力には乏しい状態である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、避難方法、対応の一連の流れの把握に努めている。	今年度の夏にスプリンクラーを設置し、消防署の協力を得て訓練を行っている。今後は、地域との協力関係を構築したいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の状態に合わせ、訴えに傾聴し、一人ひとりに合った言葉かけや対応を心がけている。	利用者の気持ちを大切にしながら、その方が好まれる呼び方で、さりげなく声かけを行っている。職員は利用者に「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉で伝えるように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の要望が表現しやすい関係であり、話を伺う際は目の高さを合わせ、話しやすい雰囲気作りをして、自己決定を促すような声掛けを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、睡眠時間等、一人ひとりのペースに合わせ、思い思いの生活を送っておられるが、職員の突発的な休みで出勤者が少ない時は、職員の都合優先になっている時がある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と共に洋服購入に出向いたり、年に数回訪問美容院をお願いし、カットをして頂いている。又、パジャマで過ごす事がないように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理に利用者様が関わる事は殆どないが、野菜の下ごしらえ等は職員と一緒にやっている。又、使用者様と相談し、簡単なお菓子作りも行っている。	ゆっくり食べて頂けるように個別の対応を行い、食事の時間を大切にしている。玉葱の皮むきや味見などのお手伝いをして頂く事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量に合わせて容器を変えたり、食べやすいように形態も変え提供している。栄養バランスに不安がある方には、栄養調整食品を提供している。水分量については、必要な方のみチェック行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態に合わせ、毎食後口腔ケアを促し、自分で出来ない方は介助行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の希望、力に応じて、オムツを使用する場合もあるが、見守りを徹底する事で、日中は布パンツや紙パンツを使用。一人ひとりの排泄パターン、習慣を活かし、排泄チェック表を参考にしながらできる限りトイレにて排泄できるよう誘導している。	排泄チェック表を使用し、時間を見計らってさりげなく声かけを行い、トイレで排泄できるように利用者に合わせての支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを確実に行うと共に、夜勤者により何日排便無しかのチェック・連絡行い、下剤調整を行っているが、できるだけ自然排便ができるよう朝食時には牛乳を提供し、適度な水分補給、レクリエーションによる身体を動かす運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で決める事無く、入居者様の希望を聞いて、気持ち良く入浴できるよう行っている。入浴拒否された時には、清拭や足浴を行い気分転換になるよう努めている。	利用者のその日の気分を確認して、ゆっくり浸かって頂けるように配慮を行っている。希望により毎日入浴される利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不規則な生活を避け、リズムのある生活習慣を送っている。睡眠が不足している場合は、利用者様の希望も兼ね、居室で休んで頂くなど適度な休息時間をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、1日分の薬を夜勤者が準備し、職員が手渡し、与薬をしている。症状の変化があった場合は、主治医に連絡し、指示を仰いでいる。また、服薬説明書に職員も必ず目を通すように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	適度な運動や歌など、利用者様が喜ばれるレクリエーションなど行ったり、できる方には洗濯物たたみを手伝って頂いている。また、家族の方と日帰りで外出されたり、外泊され喜びのある生活を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、気軽な外出・ドライブなど支援している。また、天気の良い日は散歩に行き、地域の方々と挨拶程度ではあるが交流を図っている。季節ごとの花の見学や買い物等計画を立て外出している。	車椅子の方でも気軽に散歩に出かける事ができるように声かけを行い、職員も一緒に楽しんで同行を行っている。事業所の敷地内のベンチに座る方もおり、気分転換にもなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所で一元化している。外出時には、利用者様の希望、力に応じて、利用者様がお財布を持ち、買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望や気持ちを尊重し、用事のある方は職員が連絡を入れ、自ら電話でやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気ですて過して頂けるよう、家具の配置を行い、利用者様と職員が関わりを持てるよう配置されている。また、季節に応じた花や手作りの作品を飾り、落ち着いた雰囲気に整えられている。	昔からの馴染みのある音楽がゆったりと流れる中、椅子に腰掛け新聞を読まれる方、リビングでお休みになる方がおられ、居心地の良さを感じる事ができる。二重窓の為、温かく日差しも入り明るい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージチェア、畳コーナー等を設置しており、利用者様が思い思いの場所で過ごして頂けるよう努めている。又、利用者様の状態に応じてテーブルの配置を変え、過ごしやすい環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者様の生活の中で何が必要か相談し、物や家族の写真の飾り付け、テレビ・ベットの位置を工夫し、利用者様一人ひとりが居心地よく過ごせるよう配慮している。	お孫さんの写真や思い出の品が持ち込まれ、利用者の安らぎとなっている。ベットが苦手な方には自宅と同じように布団の対応を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室と全てバリアフリーの作りになっており、自分で安全に移動できるように、手摺りが設置されている。トイレ、浴室前入口の床には、新たに滑りにくい床にリフォームした。		